

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第36号
2019(令和元)年12月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

新たなステージに向けて — 本誌3年間のあゆみ —

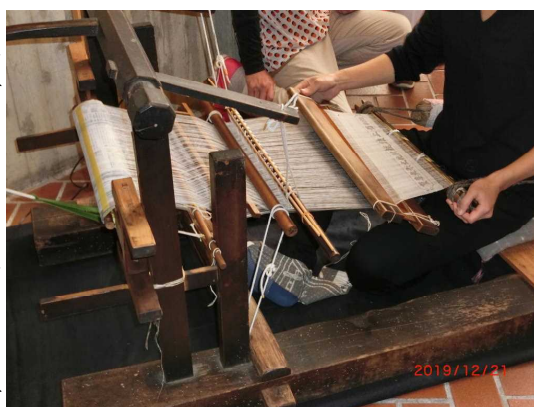
本誌を創刊して来月で丸3年を迎えます。おかげさまでこの3年間、一度も欠号をだすことなく今回で第36号を迎えさせていただくことができました。つきましては、この3年間の振り返り、以下にタイトル一覧を掲載させていただきます。

号	年	月	タイトル	号	年	月	タイトル
01	2017	01	創刊にあたって—誌名の由来説明をかねて	19	2018	07	数時間、釘付けに—古文書から見えて…
02	2017	02	踏み込みて始むべし—綿栽培者の心得	20	2018	08	綿の花の日内変化—初めて気づいたこと
03	2017	03	知らないことばかり—木綿以前のこと	21	2018	09	糸に求められる質—夢のような話…
04	2017	04	線であることの大切さ—技術の伝承	22	2018	10	要は程度の問題—「山本家百姓一切有…
05	2017	05	命取りの機械—便利さが私たちにもたらすもの	23	2018	11	近道はない—「山本家百姓一切有近道…
06	2017	06	時代を読む—豊井紡績所と西陣織	24	2018	12	結局は一番の近道—「山本家百姓一切…
07	2017	07	発想の起源—渋沢栄一と豊田佐吉	25	2019	01	大和山辺木綿—Brandとしての「やまと…
08	2017	08	段取り八分—織り手の性格は仕上げの二分に	26	2019	02	ツムの上で糸が踊る—心棒の芯の具合
09	2017	09	受け継ぎたい技術—緋(かすり)という技法	27	2019	03	初めての和機—経張力調整機能を有…
10	2017	10	むやみに糸を紡いでも—大事なものは明確な…	28	2019	04	和機による初作品—今後の資料と…
11	2017	11	心躍る思い—全国コットンサミットinかこがわ	29	2019	05	杼屋のはなし—京都西陣・長谷川杼製…
12	2017	12	相手次第、工夫次第—草木染めの魅力	30	2019	06	東北、そして福島—コットンプロジェ…
13	2018	01	10年のあゆみ—皆様の声に励まされ	31	2019	07	関わる者の視点—生活工芸双書『棉』…
14	2018	02	綿の品質—数値化できる世界と出来ない世界	32	2019	08	早糸の作り方—知多木綿の里・愛知県…
15	2018	03	糸紡ぎ三年—和綿と洋綿、どちらが紡ぎやすいか	33	2019	09	和機の復元について—「不可能」…
16	2018	04	記録を残すことの意義—かけがえのない宝物	34	2019	10	他品種の栽培について—「各地綿種…
17	2018	05	原点に戻るものの大切さ—機織り1年その1	35	2019	11	学際領域に属するもの—草木染め：…
18	2018	06	生き方を見つめ直す—機織り1年その2	36	2019	12	新たなステージに向けて—本誌3…

サブタイトルは、スペースの関係で一部を省力しています。今回、タイトル一覧を掲載することにしましたのは、最近になって、巻頭言を執筆するにあたって過去の記事を読み直す機会が増えてきた、ということも理由の一つです。

創刊当初は畑で栽培した綿から糸を紡ぎ、その糸を用いて自宅で機を織ることが一つの夢でありました。3年を経て、それが現実となり、目下自宅では経糸、緯糸ともに手紡ぎした糸で機織りに取り組んでいます。

まもなく自宅に大和機(やまとばた)がやってくる予定です。機織りの新たなステージに向けて、これまで以上に地道な活動をつづけていきたいと思えます。



地機による麻織り(奈良県立民俗博物館にて)

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和元年11月24日~12月23日)
東京都1、愛知県1、兵庫県2、福岡県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和元年11月24日~12月23日)

メールを含む各種相談件数12、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数0名



【天理市 ユースアドバイザー養成講座】 — 令和元年度第4回の講師を担当 —

令和元年12月17日(火) 午後1時30分～3時 天理市役所5階会議室にて開催

ユースアドバイザー養成講座とは、「ニート・ひきこもり等、社会生活を営む上で困難を有する若者の支援を行う為に、必要な知識やスキルを学ぶ」講座です。主催は天理市教育総合センター内、子ども・若者支援てんりネットワーク事務局。参加者は民生委員の方や若者支援機関にお勤めの方、当事者やご家族の方など約30名。「ひきこもり支援に取り組んで10年」と題して90分の講演を担当させていただきました。

〈和泉茜の里を訪ねて〉—大阪府泉北郡忠岡町— 令和元年12月18日

「和泉茜の里」とは、日本の在来種である日本茜の栽培と、茜染めの復活に取り組む「染織 かさや儀平」こと、杉本一郎氏の活動拠点です。杉本氏は長年、繊維業界に勤めておられましたが、植物染料の茜(あかね)の大半が、インド茜や西洋茜などの輸入原料であることに危機感を感じ、退職後は農・商・工連携による新しいモノ作りのカタチを創出することによって日本茜の栽培を広めようと活動されています。

茜の里は、もとは杉本氏のご実家があった土地で、ご両親は織物業を営んでおられたそうです。作業場には茜の根をはじめ鮮やかに染められた糸や布にあふれ、杉本氏の思いを聞かせていただいているうちに、時間はあっという間に過ぎていきました。写真左：茜色に染められた作品、中：作業場の様子、右：日本茜の苗。



《綿の栽培記録 2019》— 平成31年(令和元年)度版 その11 —

年の瀬を迎え、綿木引きをはじめました。まず、12月14日に7号畑から綿木引きを行い、22日には5号畑の綿木引きを完了。今後は、27日に1号畑、28日に6号畑の綿木引きを行い、今シーズンの綿の栽培に関わるすべての作業を終える予定です。下段写真は左：5号畑の綿木引き、中：和綿の根、右：洋綿の根の様子

【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- ・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成29年, 2017産。丹羽正行氏による打ち綿)
11月24日～12月23日 (作業実日数27日) 糸の総量63.6g (17.0匁) 総時間157分 (2時間37分)
※1分間≒0.405g 1時間≒24.3g (6.5匁)

【研修等の記録】

- ・令和元年11月24日「やきもののうめだ&海石榴庵」(桜井市金屋)訪問。陶芸展を見学。
- ・令和元年12月08日「奈良マラソン2019」10kmコース出場者応援。(奈良公園周辺)
- ・令和元年12月17日「天理市ユースアドバイザー養成講座」(天理市役所)にて講師を務める。
- ・令和元年12月18日「和泉茜の里」(大阪府泉北郡忠岡町)を訪問、杉本一郎氏より日本茜のお話を伺う。
- ・令和元年12月21日「奈良県立民俗博物館」(大和郡山市)を訪問、「冬期企画展：機(はた)」見学。

